

旅館業におけるインボイス制度・電子帳簿保存法について学び対応を検討

草津温泉旅館(協)

3月9日、草津町・組合事務所において「旅館業におけるインボイス制度・電子帳簿保存法について」と題して、福田公認会計士事務所代表・福田秀幸氏を講師に講習会を開催した。

同組合では組合員の旅館に対して、請求書や領収書の様式を提供している。この様式をインボイス制度に対応したものに改めるための情報収集を行うとともに、組合員に制度の理解を深めてもらうために、本講習会を企画した。



対応を検討するため、多くの受講者が集まった

福田氏は、インボイス制度の概要、登録申請スケジュール、登録後の影響を解説。また、インボイス発行事業者に転換した場合の優遇措置として、国の小規模事業者持続化補助金における特別枠(補助上限額の引き上げ)などの施策も紹介した。

さらに、既に本年1月より施行されている改正電子帳簿保存法についても、概要や猶予期間、実務上の要点などを詳しく説明した。

商店街における「DX」の可能性を探る

群馬県商店街(振)連合会

3月14日、桐生市・桐生商工会議所会館において、桐生市の会員3組合を対象に「商店街活性化における『DX』の可能性」をテーマに、講習会を開催した。

桐生市の中心商店街全体として、DXと向き合い、活性化の切り口として検討を行っていくにあたり、基本的な内容を広く組合員に知ってもらおうと、本講習会を企画した。

講師は、株式会社Feel Communication代表取締役・桐生純子氏。

桐生氏は、DXの定義をデジタル化と比較して説明し、DXの導入で大切なのは、「商店街が何を実現したいのか」「それに対してどうITを活用するのか」について、一人一人が考え、認識を共有することが必要であると語った。



ポイントを解説する桐生氏

後半は、テーマを設け、課題解決に向けた意見を出し合い、意見を整理するグループワークを実施。参加者は、一人一人の意見の大切さ、それを全体で共有することの重要性を体感した。



グループワークを行う受講者